

人と人とのつながりと防災

なぎさ小学校 五年一組 斉木 麻里衣

私は、誕生日が十一月で、震災がありました。た時はお母さんのおなかの中で東京にいました。私は、大学生の岸本くるみさんに話を聞いて、震災は、そんなにおそろしい物だと知りました。震災があると、必ず周りの人に助けをもらうことがあると思うので、その周りの人の思いやりがすごくつながる。この周りの人の気がしました。

私は、水が出なくなったり、電気がつかなくなったりしたことがありません。けど、けいぞう、岸本さんの話を聞いて周りの人と協力し、助けあう。その震災、災害をのりこえていくのは、信じられないと思いました。けど、今の神戸の町がこんななにか。この神戸の町がこんななにか。この神戸の町がこんななにか。震災の時本当に一人一人が自分のことだけじゃなくて、他の人のことも考えていたんだなあと思いました。

神戸の町が多くなるといいな。こい

るのは、兵庫県に住んでいる人だけじゃなくて、日本中、世界中のいろいろな人の協力があるからだと思います。スリランカや、ネパールは岸本さんが言っていたように、日本とのかわりか大きくなっていると思います。特にスリランカの人たちが着ている、「おはしも」の字がついた服は、私達もその意味を知っているくらいなんだから、そこもかわりがあると思います。これも人とのつながりだと思います。

私は、岸本さんの話を聞いて、震災の時はだれもが周りの人のことを考えたいということばかりでした。けど、それでもまがり一番に自分の命を守らなければいけないのかもしれないと思いました。人とのつながりと防災は、きびしく、苦しい生活の中、人が周りの人のことをよく考え、そして協力してこの阪神淡路大震災のりこえてきたこのつながりは、じんなに知らない人々もつながりは深いのだと思います。